

## 研究活動報告

### 第4回 ADBI-OECD-ILO アジアの移民に関する円卓会議

「アジアの移民に関する円卓会議」は、アジア開発銀行研究所 (ADBI)、経済協力開発機構 (OECD)、及び国際労働機関 (ILO) による共催で、2011年より定期的に開催されているものである。今回は、同会合の4回目の開催であり、東京霞が関にある ADBI 本部にて、1月27～28日までの2日間の日程で開催された。会合では、国境を越えた人的資本の形成 (Building Human Capital Across Borders) について発表、及び意見交換が行われた。当研究所からは、厚生労働省からの依頼を受け、人口動向部より是川が参加した。

会合では各国の移民送り出し政策担当者が、自国の政策を紹介するという部分と、国際機関や研究機関の研究者がその要因や背景についての分析を紹介するという、主に2種類の発表から構成されていた。

会合では、高度人材について議論されると同時に、中程度の技能水準 (Intermediate Level) を持つ人材が焦点となった。アジアの送り出しの多くが、送り出す自国民の技能水準の向上に努めると同時に、受け入れ国である先進国の多くが、技能水準ごとに細分化された受け入れ体制をとっていることが報告された。また、中国などの新興国を中心として、移民送り出しから受け入れへと転換する過渡的な状態にあることが報告され、わが国の状況の国際的な位置づけについて浮き彫りとなった。移民政策というフレームワークの国際的な標準化、高度化の動きが見られる中、わが国もそれに対応することが急務といえる。

(是川 夕 記)

### オックスフォード大学日産日本研究所セミナーでの招聘講演

英国オックスフォード大学 St Antony's College 内にある日産日本研究所 (Nissan Institute of Japanese Studies) では、本年1月より数ヶ月にわたり Social factors and demographic trends, Japan as a case study と題された週1回のセミナー、Nissan Institute Seminar in Japanese Studies を開催している。筆者は1月29日～2月1日の日程で同研究所を訪問し、1月31日に開催された同セミナーにおいて招聘講演を行った。同大学の社会学・人口学部長に就任している Francesco Billari 教授や Chris Wilson 教授など多数の人口学者・日本研究者の参加があった。日本における初婚率の低下やその背景を説明し、多重減少生命表の手法を用いて近年結婚した夫婦の特徴などを紹介した。参加者は近年話題となっている婚活や少子化対策の成果などに関心が高く多くの質疑があった。同研究所は社会史や日本文化の第一人者である Ian Neary 教授、Roger Goodman 教授をはじめ、教育社会学者の Takehiko Kariya 教授、日本の家族問題に詳しい Ekaterina Hertog 氏、医療経済問題を人口学の視点から幅広く研究している Hiroaki Matsuura 氏などが所属している。講演前後の時間にはこうした研究者らとイギリスの教育制度や家族政策、英国における日本に対する関心などについても幅広く議論することができ、大変有意義であった。

(岩澤美帆 記)